



母県から稲葉課長一行

パラグアイ・ピラポ岩手県人会創立45周年祝典に、増田知事名代として出席される県文化国際課「稲葉比呂子」総括課長、「工藤明雄」主査、国際交流協会「小田島栄」理事長の3氏が海外県人会との意見交換交流の為7月28日着伯された。

同日午後、県連、移民資料館、東洋街など視察、サンパウロ新聞、ニッケイ新聞に挨拶まわり、夕刻役員有志(20名余)による懇談会が行われた。

29日、モジの菊池達郎氏(東和町出身)の養魚場(錦鯉)を視察され、引き続き夕刻より

県人会員70余名出席の歓迎会を兼ねた交流懇親会が行われました。留学、研修希望者(計6名)に対し稲葉課長が面接され、県で勉学したOBとの意見交換も行われた。30日早朝、一行はアスンシオン向け離伯された。



『国境を越えた交流』

1

ピラポ県人会祝典 大統領も出席した入植祭

県人会では、パラグアイ国ピラポ県人会創立45周年・同移住地入植祭出席の為、慶祝団を組み43名で7月30日午後4時聖市を出発。31日早朝イグアス着。世界最大の滝イグアス大瀑布を視察後、パ国へ入国(出入国手続きをイグアス移住地の、工藤敏夫さんら3名の応援を得ても約2時間要した)。

工藤さん(安代)等の道案内で30キロ地点まで同道頂き、パラナ川沿いの国道を約300キロ西下1500Km、午後7時前「富美村公民会館」前で岩手県旗を掲げた会員らが待っていた。工藤会長、西館副会長(一戸)はじめ役員、婦人部、青年部など総出で祝賀の準備中にもかかわらず、温かい出迎えを受けました。

県人入植は1960年9月に佐藤義政氏(花巻)ら9家族47名が移住。以後92家族が入植されたが転出など

シオン県人会顧問(水沢)や関係者などを迎えて、現地時間10時開始(伯時間11時)。

工藤繁会長は開拓と苦難の道を振り返りながら団結し45周年を迎えられたと挨拶。増田県知事のメッセージを稲葉課長が代読。小田島交流協会理事長や各界代表の祝辞があり、千田会長は祝辞の中で移民100周年に、ブラジル県人会は50周年を迎えるが皆さんに是非出席して頂きたいと伝え、その後、感謝状の授与や郷土の鬼剣舞等が披露された。祝賀会ではお国言葉での懇談に花が咲いた。





日本まつり大盛況

7月15日から17日の3日間



第8回日本まつり (Festival do Japão)が、7月15日から17日の3日間、州農務局展示場で行われ、入場者は昨年以上の10万人となったようです。

会場が市中央から少し遠い場所に移転した事、さらに入場料を徴収することなどで、いささか厳しい状況下での開催となった。しかし好天に恵まれた土日の午後は車も人も長蛇の列となり、入場をあきらめる人も少なくなかったようです。一般ブラジル人にも人気は年ごとに高まり、結果は何れのブースも大入り満員の大盛況であった。

祭りのテーマは「アニメマンガ」で、日本より派遣されたアニメ専門家の支援、それらの作品提供があり、また、日本で事業を起こしたブラジル日系企業の「ABCジャポン」も参加、さらに芸能人も加わり会場を大いに盛り上げた。

会場は、スポンサー、緑と環境、食、夢広場、旅若者、アニメ、日本文化、友好、子供、援護

団体などのパビリオンとなり、子供の広場では親が見守る中「おむすび作り」で日本古来の食文化を体験したり、絵、折り紙、切り絵、遊びなどの指導もあった。

我が岩手県人会は、従来から高品質の餅で評判の「白餅」や「餅料理」で出店。餅米は計240キ口を使用。土日のいずれの日の午後には早くも無くなるほどでした。また16日午



後日本から届いたばかりの岩手の地酒「南部美人」の試飲を通したPRと宣伝も催しました。



また、別館展示場子供広場の隣接に花巻市、金ヶ崎町から「書画」の提供を受け「いわて・児童作品集」「交流の絆となれば」と作品を展示。

日本移民の父「杉村濬公使」コーナーも設け紹介した事で、多くの人々に児童書画や公使について鑑賞頂けた事と思います。

先の「餅まつり」や今度の「日本まつり」など活動の収穫は一般会員の皆様が大いにボランティアとして会を手伝おう、交流を深めようの気持ちで高齢の方々から、さらに若い方々まで協力頂いた事だと思います。

協力頂いた皆さんに改めて心から「お疲れさま」と「ありがとう」を述べたいと思います。

※ 畑氏県人会コーナーなどVTR取材

有住さん ありがとう 第8回日本まつりへ児童作品展示



ブラジルと日本の「かけ橋」として児童作品(書画)の相互交流を、願っていたのは去る4月急逝された金ヶ崎町の有住辰志氏(賛助会員)でありました。県人会45周年と戦後移住50周年、また第6回日本まつりが2003年7月に重なり、県庁の肝入りで花巻市の児童作品の提供を受け、日本まつりへ展示されたことは記憶に新しいことと思います。

2004年には有住氏の応援を得て、金ヶ崎町へ依頼し日本まつりに出展。またこれらの作品は、パラナグアやサン・ミゲール・アルカンジョ日本語学校にも展示されました。

当ブラジル児童の作品は逆に、昨年金ヶ崎町へ贈られ、町民芸術文化祭で展示され好評を得ました。



今年も有住氏の応援を得て町へ申請。また花巻市にも提供をお願い、桜台小学校全学年から作品86点、金ヶ崎の金ヶ崎町、第一、三ヶ尻、西、二ツ森、永岡の6小学校からの63点を、日本まつりに「いわて・よい子の作品集」「Brasil/Japão 交流の絆となれば」として展示しました。提供頂いた花巻市、金ヶ崎町や各学校、生徒の皆さんへ心よりお礼申し上げます。

尚、同作品集は県人会で会員皆さんにも鑑賞頂き、児童作品の交流希望校へ贈り、交換交流へと発展させたいと思います。皆さんの身近な所で希望校はないでしょうか。お知らせ下さい。

賛助会員証

ありがたい「賛助会員証」

6月30日 山田町 松本 定次郎・トミ

先日は県人会の立派な「会員証」を頂き主人共々ありがたい事だと話しております。

会報を拝見する度に、会員各位のご協力で素晴らしい発展をなさっているなあと感佩いたします。

私共が訪伯のおり運動会がありまして、高齢化と若者が少なくなっていることに淋しさを感じました

が、他県と合同で行っている事を知り良かったなと思えました。他県との交流で皆様のご活躍の場が広まる事により、日系人として大きな力となって、ブラジルの中で認められ、そして皆様の生き甲斐となることではないかと思われま

す。またニュースの中に、知人が載っていたりすると元気で頑張っていることがわかり、とても楽しみにしております。これからも千田会長様はじめ皆様のご活躍をご期待申し上げます。

かしこ

絵になる「賛助会員証」

水沢市 山折 昭磨

いつも県人会ニュースをご送頂いたり「日本移民の父、杉村公使」関連FAX、この度は絵になる「会員証」を確かに受納し深く感謝申し上げます。

当地では、長年慣れ親しんだ「水沢市」という名称は、周辺の江刺、胆沢、前沢、衣川等との市町村合併により霧散霧消し、来年からは『奥州市』になります。

「人の生活」に必要欠くべからず「水」「沢」「江」「川」の字が無くなりましたが、さすがに「金」だけは残りました。行政や住民感情としては暫くは臥薪嘗胆の時を過ごさなければならぬようです。末筆ながら、皆様の尚一層のご活躍を念じ上げます。

「賛助会員証」額に収めて大事に

7月22日 盛岡市 一戸 和

毎月お送り頂く県人会ニュース興味を引く記事も多く、面白く読ませて頂いております。特に紙面構成が変わって印刷も鮮明になり随分読みやすくなって良かったと思っております。感謝申し上げます。

先日は、思いがけず立派な「賛助会員証」をお送り頂きました。会員証を見な



がらつくづく県人会の皆さんの、苦難の道を歩んできた強い自負と誇りを、そして日本、岩手を思う強い心を強烈に感じました。

これが3世4世の方々にも引き継がれて行くことを願う者です。小生のような賛助会員はなんのお役に立てませんが、気持ちの上だけでも皆さんを応援していきたいものと思っております。額に収めて大事に致します。有り難うございました。

県人会ニュース130号到着

7月24日 盛岡市 吉田 恭子

杉村元公使の記事に興味深く拝見しました。福島新吾さんは以前「移住研究」に投稿されましたので、なかなか詳しく研究されている方であると感心しておりました。

神戸の日伯協会の黒田元事務局長さんを介して、新氏と連絡を取るようになって、ここまで、詳細にかつ具体的に事実が県人会に伝わって何よりでした。

黒沢さんは、百合子さんが留学の時県庁を訪ねられ当時担当者としてお会いしており、懐かしく嬉しく思います。

ピラポ45周年に貴会から、多数が参列する事はとても喜ばしい事です。会が纏まって順調に活動している証ということですね。道中無事に旅行できますように。

※ お便りありがとうございます。何れも文中から抜粋致しました。悪しからず。

第29回交流懇親会開催

8月21日(日) 午前11時
(従来の高齢者懇親会改め)

- * 高齢者をうやまうためにも、家族全員で参加できる集いにしたいと改めました。従来通りの4ヶ月事の誕生会なども行います。
- * 昼食には毎度の事ですが、皆さん自慢料理の持ち寄りをお願い致します。その他は会で用意。

会員慰安親睦

キロンボ温泉旅行

9月20日21日22日

希望者は早めに事務所へ申し込みを。バス満席になり次第締め切ります。詳細は山道事務局長まで。

費用は 一般 230レアイス
70～79才 200レアイス
80才 以上 180レアイス

2004年度

「岩手県人会ビデオレポート」

2004年度「ブラジル岩手県人会レポート」年間

行事を畑勝喜氏が撮影し、県人会記録として製作しました。参加された皆さんの姿や特別取材した映像がまとめられています。ビデオは実費(40レアル)でお分け致しております。母県の親戚などに贈られては、申し込みは県人会へ。

- ※ 2005年度の行事も取材撮影されております。お楽しみに！
- ※ 同ビデオは賛助会員へも贈られました。

www.iwate.org.br

長らくご迷惑をおかけ致しましたが、県人会ホームページが更新されました。皆様のご意見、投書等、ふるってお寄せ下さい。

E-mail: iwate@iwate.org.br

《 杉村濬公使にまつわる記録 》

会報130号でお伝えした、公使の長男陽太郎氏(外交官)は、国連事務次長をつとめられた後、イタリアやフランス大使を歴任されております。

また公使は亡くなる前の冬、公務で長女アサ(当時12歳・後の福島アサ)を伴って、船でアルゼンチンへ、ア国から馬の背に乗りアンデスを越えチリまで往復。この旅行が肉体的にも負担があり、脳出血の間接的原因だったかもと。(アサの日記に記載)

アサの4男「新吾氏」専修大学で政治学教授(文系)は、濬公使の研究を行い、1982年に公使の墓参をされております。尚、杉村家の系図(新氏作製)も判ってきました。

以上書き落とした所や新たな資料提供が「杉村新氏」からありました。

※(家族写真所蔵は延広氏)「新」氏から、杉村家のことを、纏めて頂き厚く感謝致します。とメールがありました。

県人会の動き

(2005年7月)

- | | |
|--|--|
| <p>2 高橋昭二郎、及川益夫監査役にて会計監査を行う。</p> <p>☆ 定例役員会 日本まつり、県職員歓迎会、ピラポ45周年ツアー、行事など。</p> <p>5 会報130号をニッケイ印刷へ下版。</p> <p>6 金ヶ崎町(高橋紀雄町長)から日本まつりへの児童作品63点が届く。</p> <p>☆ 婦人部集会。</p> <p>☆ 松本夫妻から「賛助会員証」受領の礼状。</p> <p>7 及川理事日本まつり説明会に出席。</p> <p>8 吉田恭子さんより「賛助会員証」受領のmail</p> <p>11 国際課工藤明雄主査より山口部長は議会出席の為、稲葉比呂子総括課長が訪伯と連絡あり。</p> <p>13 千田会長日本まつり会場を視察。婦人部集会。</p> <p>14 夕刻より日本祭り会場へ必要道具を千田夫妻、藤村夫妻、及川理事、山道事務長、畑勝喜氏にて運搬。</p> <p>15 日本まつり準備に数名が会場へ。</p> <p>16、17 日本まつり参加。多くのボランティアが協力しあい楽しい交流があった。</p> <p>21 杉村新氏より会報受領のメール、公使記事に感謝あり。</p> <p>☆ 県より定期刊行物受領。</p> <p>22 ピラポの工藤会長へホテルについて電話。</p> <p>☆ 吉田重雄氏より電話あり。会報受領とパラグアイへの伝言</p> | <p>☆ 留研生希望調査書受信。</p> <p>24 吉田恭子さんより会報受領、ニュースを興味深く読んだ。訪伯される国際課の稲葉課長さんに概略をお話されたとメール。</p> <p>☆ 「餅まつり」や「日本まつり」の慰労会を行う。お手伝い頂いた40数名が参集。</p> <p>25 山中ベレン県人会長より電話。同氏は腸捻転を患い手術された由。</p> <p>26 山中氏来館。ピラポ県人会へお土産持参。</p> <p>☆ 県連執行部会に会長出席。</p> <p>28 千田会長夫妻、藤村副会長、佐々木理事にて稲葉国際課課長、工藤主査、小田島国際交流協会理事長を空港へ出迎える。市内視察後役員有志との懇談会あり。</p> <p>☆ 広報金ヶ崎受領。</p> <p>29 稲葉課長一行近郊農家を訪問。一行の歓迎交流懇親会があり、70名以上が参加。</p> <p>30 稲葉課長一行ニッケイ新聞社訪問の記事。</p> <p>☆ パラグアイ向け慶祝団43名出発。</p> <p>31 早朝イグアス着、滝視察後ピラポ向け発。</p> <p>☆ 及川益夫幹事佐賀県人会50周年式典出席。</p> <p>☆ 昆野フシントン会計理事は香川県人会創立50年記念式典に出席。</p> |
|--|--|

会費納入者名(敬称略)(7月)

岩淵克之、猫塚 司、菊池義治、高桑美代子(新入会員)、佐藤 浪、及川あい子、服部葉子、(累計 139名)

寄付 寄贈

図書277冊 渡辺 美智子 様
お茶菓子 佐々木 憲輔 様

RUA THOMAZ GONZAGA, 95-M - CEP 01506-020 - LIBERDADE - SÃO PAULO - BRASIL
TELEFONE 55 (11) 3207-2383 - FAX 55 (11) 3277-0403
www.iwate.org.br - e-mail: iwate@iwate.org.br

イワテ岩手県人会

Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil



東山

狢鼻溪

北上川の支流砂鉄川にあり、兩岸は巨岩絶壁が連なり、鏡のような水面にうつす兩岸の景色を縫って行きかう木船からは、舟頭の唄う“追分”が閑静な溪谷にこだましあう。

春は藤の花、山花、山吹、夏は溪谷での水遊び、秋は紅葉、冬のこたつの入った木船での雪見酒と四季の織なす溪谷美“狢鼻溪”での舟遊びは、訪れる人々の旅情を満喫させてくれます。